



豊玉二中だより

令和元年度 第7号
発行日 11月1日(金)
練馬区立豊玉第二中学校
校長 神山 信次郎

ノーサイドの精神

副校長 木原 賢三

豊二中の校庭の木々も鮮やかな黄色に色づき始め、秋の深まりが感じられるようになりました。秋は「実りの秋」「芸術の秋」と言われますが、本校においても、29日に練馬文化センターで文化発表会が行われ、どの学年も日頃の練習の成果を発揮して、素晴らしい合唱をホールいっぱい響かせることができました。多くの保護者や地域の皆さまにお越しいただき、ありがとうございました。

さて、9月20日から始まったラグビーワールドカップは、日本が優勝候補のアイランドを破り、ベスト8に進出するなどの大活躍で大いに盛り上がっています。日本の勝利は、ワールドカップ決勝に進出するために周到に準備された結果であり、ひたむきにチームに貢献し続けた日本代表選手の努力の集大成で必然の勝利といっても過言ではないでしょう。しかし、ラグビーの試合で最も感動したのが、日本が勝利して歓喜する中、90分間闘った仲間としてお互いに健闘をたたえ合い、日本選手をフィールドから相手選手が拍手で送り出す姿でした。ラグビーはコンタクトプレーの激しいスポーツで熱くなりやすい場面も多くあります。しかし、「ノーサイド」の試合終了の合図とともに、敵も味方もなく、勝者も敗者もなく、全力を尽くして戦った仲間としてお互いに尊重し合い、健闘をたたえ合います。ラグビーワールドカップにおいて、『ラグビー憲章』に記されている「情熱、品位、規律、結束、尊重」の5つの重要な考え方に多くの人が共感し、一人一人の選手のプレーに、そして、「ノーサイドの精神」に心をゆり動かされ、世界中の盛り上がりにつながっていました。

学級の中には、歌が得意な生徒もいれば、そうでない生徒もいます。2週間あまりの合唱コンクールの練習の中で、学級での様々な葛藤や課題がありました。しかし、本番近づくにつれて、実行委員を中心に、一人一人が「最響のメロディー」をクラスみんなで創り上げようと気持ちの高まりがみられるようになり、美しい響きが校舎中に響くようになってきました。29日に行われた合唱コンクールでは、最高学年の3年生が最後の合唱コンクールという気持ちを『あなたへ』の曲にこめ、素晴らしい合唱を響かせてくれました。また、1・2年生も学年の特徴を生かした一生懸命で、迫力のある中学生らしい合唱を響かせてくれました。

合唱コンクールは、教師にとっても生徒と真剣に向き合い、生徒とともに合唱を創り上げ、学年が1つになる達成感を共有できる、感動的で格別な行事です。合唱コンクール当日、お互いを尊重し合い、一人ではできないことでも仲間と一緒にだからこそできる達成感を得ることができた豊二中生の姿がありました。文化発表会が終わり、仲間とお互いにたたえ合い、全力を尽くした豊二中生の笑顔あふれる姿を見て、とても誇らしく思うのと同時に大きな成長を感じることができた行事となりました。今後も豊玉第二中学校の様々な学校行事等ありますが、今回の経験を活かし、さらに素敵な学校をめざしていきたいと思います。保護者や地域の方のご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。